

滝学園の図書館における ICTの活用について

発表者：滝学園 国語科教員 安藤裕司

目次

- ▶ 1.発表者自己紹介
- ▶ 2.滝学園のルーツは図書館
- ▶ 3.滝学園のICT環境整備
- ▶ 4.滝学園の図書館におけるICT利活用
- ▶ 5.まとめ

～自己紹介～

安藤 裕司 (アンドウ ユウジ)

- ・国語科教員
- ・大学・院生時代は平家物語の和歌に関する研究
- ・趣味: パソコン・車・ドラゴンズ・水泳
- ・滝学園8年目
- ・今年度分掌: 広報・図書館リソース・情報センター

滝学園のルーツは図書館！



滝学園の創立者である滝信四郎先生は、大正4年、大正天皇即位記念事業として「青少年育成こそが地域社会への最大の奉仕である」という理念のもと、講演室を併設した私設図書館「瀧文庫」を愛知県丹羽郡東野村河原(現江南市東野町河原)に開設した。

その後、瀧実業学校(現滝学園)が開校されると、付属図書館として引き継がれた。

滝学園のICT環境整備

2026年に本校は100周年を迎える。
ICT環境整備は100周年に向けて避けられない課題。

今から3年前、全教職員へiPad配布。
普通教室がある建物は全館Wi-Fi環境

2年前から順次生徒へiPad配布。
現在中1～高2まで生徒iPad配布済み。
全教室モニター完備。みらスク設置。

滝学園の図書館におけるICT利活用①

100周年を迎えるに当たって、周年事業の柱の一つが「図書館のリニューアル」であった。

上層部から「図書館の電子化」「電子図書への置き換え」を進めるよう打診があった。(学内ICT化に絡み、国語科で本にも関心があるだろうということで私に。。。)

(本学理事長はハワイ在住であり、アメリカの公共図書館では当たり前とのこと)



日本では「電子図書館」としてのコンテンツが十分ではない。その為全てを電子図書化するのは現状難しい。

滝学園の図書館におけるICT利活用②

では、図書館における電子化とはどのような形が考えられるのか？
そもそも新図書館のあり方はどうあるべきか？

- ▶ webOPACの導入
- ▶ 電子書籍の利活用
- ▶ 新聞データベースの利活用
- ▶ 電子版事典・辞典等の利活用
- ▶ 図書委員の活動による成果物の披露
- ▶ 瀧文庫の公開

図書館という場所ではなく、
図書館機能をもっと活用してもらおう！
合い言葉は「いつでも・どこでも」

滝学園の図書館におけるICT利活用③

▶ webOPAC=昨年度導入。本の検索がいつでもどこでも可能。

←今までは図書館に行かなければ検索できなかった。中3で卒業論文を書く際、場所が制限されることに。また、ciniiへすぐ飛べるのもメリット。現在整理作業中の瀧文庫の目録情報も公開予定(文化財の利活用)。また、図書館HPができたので、図書館や図書委員からのお知らせを発信することが可能に。

▶ 新聞DBは3社(朝日・読売・中日)を契約。

←ほとんど使われることもなく、場所も取る縮刷版から移行。50人同時アクセス可能で授業内での利活用も可能に。教材作りも楽ちに。

▶ ジャパンナレッジSchoolを中1～高2まで導入

←辞書・辞典はもちろん、新書約470冊読み放題はインパクト大。普段の勉強で日国を使う、読書で使う、調べ学習で使うなど幅が広い。

コンテンツも随時増える。統計資料なども最新になっていく。

1人年間3300円なので6年使っても高校生向け電子辞書を買うより安い。

滝学園の図書館におけるICT利活用④

▶ 今年の秋から電子図書館導入

←LibrariEを導入する。現在図書館は工事のため仮図書館であり、場所も限られているので電子図書の実験をするには好都合。選書はこれから。どのようなコンテンツが相性が良いかを見極める必要がある。



滝学園の図書館におけるICT利活用⑤

▶ ICタグによる管理（予定）

← 在本調査の時間短縮。

自動貸出機の活用（検討中）

滝学園の図書館におけるICT利活用⑥

課題

オノマトペについて調べてみよう！

方法

次に提示する質問に対して、一通り論じられている本がジャパンナレッジに存在します。その本を用いてオノマトペについてまとめてみましょう。

条件

- ロイロで提出
- 600字以上で作成（右下に字数出ていますね）
- 手書き不可。
- カードは複数枚使ってよい。
- 本文をそのまま写すだけのものは不可。引用は可。
- 提出は7月31日(日)まで。国2の平常点に加算します。

**もし、日本語にオノマトペがなかったらどうだろうか？
日本語にオノマトペがあることはどのような効果をもたらしているだろうか。（自分の意見を書いて下さい）**

もしオノマトペがなかったら、オノマトペの存在する今はあまりわからないかもしれないが、だいぶ遠回りに説明しないといけなくなると思う。まだ語彙をたくさん持つ大人はまだしも、特に小さい子はオノマトペの方が理解しやすく(聞き取りやすく)話しやすいので、オノマトペがなくなってしまうと、極端な話だけど親子での会話が噛み合わなくなる可能性とかもあると思う。やっぱりオノマトペは人間(小さい子にとっては特に)にとって説明しやすくするためのツール、聞き手にとってわかりやすい説明をするためにも必要だと思う。

日本語は世界で一番オノマトペが多いのだろうか？

ナイジェリアなどで話されているハウサ語には「チュクーチュクー(cukuu-cukuu)」というオノマトペがあるそうで、意味は「不正な方法で手に入れようとする様子」だそうだ。日本語にはこれを完璧に表現するオノマトペは存在しない。

このことから筆者は

「この例一つ取っても、「世界最大のオノマトペ言語は日本語である」というのが、日本語や英語しか見ていない人の思い込みであることは明らかである。」(4章外国語にもオノマトペはある)

と述べている。

つまり日本語がオノマトペの一番多い言語というのは必ずしもあってるわけではない。(言語の中でオノマトペが多いのは事実かもしれないが一番多い言語とは言い切れないということ。)

まとめ①

- ・「いつでも・どこでも」を実現するにはICTの利活用は不可欠。
- ・ICTの利活用によって場所の制限が大幅に緩和。図書館機能がより利用されるように。

まとめ②

- ・ICT利活用=紙の本の排除ではない。ハイブリッド型が今のところ最適解か。コンテンツの充実度もだがやはりコストが。。。

ICTの利活用が目的にならないように。図書館機能を充実させていくための有効な手段の一つ。

- ・図書館が居場所の生徒は今後も存在

→新図書館は今までの図書館+閲覧スペースを図書館外の場所へ設置。様々なニーズに对应していく。「どこでも」にはもちろん図書館を含む。

ご視聴頂きありがとうございました。